

ツケギヤシヨウジ 附木屋小路 金澤の舊町名。山田屋小路一番丁の上、新野町から百姓町に入る間の小路をいうた。もとこの小路の角に附木製造の商家があつたによつて名を得た。

ツケヒデン 附句秘傳 一冊。金澤の俳人北枝著。閑更の月花傳の巻尾に、正風傳北枝、嵐雪傳嵐雪、附句秘傳北枝と載せてある。

ツケニン 附人 藩政時代に、嫁したる女子に附隸せしめた臣僚をいうた。又他人を迎へる時、豫め看視のものを遠近各所に派遣し、その來るを認められた時、馳せて之を報せしめるをもいうた。

ツジカトヨシ 辻勝吉 通稱幾右衛門。先主は田中筑後守忠政及び堀尾山城守忠清であつたが、寛永十六年來つて前田利常に仕へ、翌十七年歿した。子孫藩に世襲する。

ツジカンベ 辻貫兵衛 初め善三郎・貫右衛門。享保二年父藤三郎の遺知二百石を襲ぎ、寶曆九年百石を加へ、割場奉行・御武具奉行等に任じ、十三年十一月廿三日五十三歳を以て歿した。

ツジゴロザエモン 辻五郎左衛門 初めて前田利長に仕へ、二百石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

ツジスケヒラ 辻補平 通稱三郎左衛門・九郎。享保十六年養父清助の遺知百石を受け、寶曆九年三百五十石を加へて寄合人持に列した。

ツジハラ 辻原 能美郡三ツ屋野の内の小字。

ツジハラ 辻原 能美郡河原山の小字である。白山神主守部氏の系圖に、『冬相卿弟春相宮司先、其子式部大夫兼政、其子兼氏、其子兼照、已上代々三社神主職、住辻原村』とある。

ツジバンシヨ 辻番所 藩政の頃、武士町に於いて夜警の爲番人を備ひ、之を入れ置く小屋をいうた。寛文三年正月十六日から初つたもので、正月から八月中又は九月まで勤務、毎夜拍子木を打つて拂曉まで巡邏し、その番人を番太郎というた。

ツジフサノリ 辻房卿 通稱新次郎・九郎右衛門・織人。寶曆八年養父織人勝明の遺知二百八十石を襲ぎ、明和八年表小將に任じ、安永中越中大浦村に流され、配所で歿。子織人新知百石を受けて家系を襲いだ。

ツジヘイノジヨウ 辻平丞 元和三年前田利常に仕へて六百石を領し、明暦三年歿。子孫相襲いで藩に仕へる。

ツジムネヨシ 辻宗吉 通稱兵部。辻山城守の弟で、正保の頃伏見より金澤に下り、鏡象眼師として祿百石を受けた。その子孫に次郎宗次・九郎治宗長・九郎右衛門長重・久次郎長吉があつた。

ツジヤマシロノカミ 辻山城守 寛永中伏見より金澤に下り、鏡象眼師として祿百五十石を受けた。門人に助九郎友重・三郎右衛門友次・新七重長・勘七政平があり、重長の子に喜八郎重次、政平の子に勘兵衛政信があつた。此等の中友次は最も優秀といはれる。

ツダ 津田 鹿島郡垣吉の内の小字。

ツダウキヨウ 津田右京 初めて前田利常に仕へ、七百石を領し、延寶八年歿。子孫相

繼いで藩に仕へる。
ツダカクベ 津田覺兵衛 慶長四年初めて前田利家に仕へ、四百石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

ツダカツヨシ 津田勝良 通稱源三郎。織田信長の五男源三郎勝長の子である。慶長七年前田利長に仕へ、六百石を領し、大坂再役に玉造口で首一つを獲、元和二年歿。子孫藩に世襲する。

ツダケイサク 津田憲策 河北郡英田の人で、池田九華の孫。四條派の譜をその祖父から習ひ、初は一峰、次いで九亭・九仙・九傳と號した。後南森下津田氏を襲ぎ、居ること五年にして家産を蕩盡した爲、能美郡に至つて陶器を業とし、更に大坂に赴き、丹青の技を以て衣食した。明治三十五年一月三十一日四十七歳にて歿。

ツダコウザエモン 津田幸左衛門 安永五年五月御歩小頭から進んで百石を領し、組外に班せしめられた。子孫相繼いで藩に仕へる。

ツダシゲツタ 津田重次 小字半四郎、後に大學・和泉・勘兵衛と稱した。重久の子。慶長二年前田利長に仕へて五百五十石を賜はり、次いで百石を加へ、大小將となり、八年二百石を加増され、御小將頭に陞り、十五年父の後を襲ぐに及んで祿五千五百石を領し、大聖寺城の守將となり、又大坂兩役に出陣して、後役に岡山口で槍功があり、三千五百石を加へられ、後更に増して一萬石となつた。重次刑獄を理し、遂に家老に進んだが、寛永十八年十月金澤城の大手に、重次が高山南坊と共に外教の信徒で、後に改宗したけれども内心之を放棄したものでないと書した高札を

建てたものがある。是に於いて藩吏之を幕府に上申し、遂に江戸に護送したが、重次は固より禪宗の旦那で、告訴せられたる如き事實なきを以て、空しく歲月を経過し、慶安四年四月四日その地に客死した。萬治二年重次の子伊織盛昭新たに千石を以て祿せられ、盛昭から四代仙三郎は幼少で祿三の一を襲ぎ、寶曆七年早世して斷絶した。

ツダシゲヒサ 津田重久 初名牧之助、後與三郎・遠江守・道供。天正の初足利義昭に仕へ、五年明智光秀に轉じ、十年光秀の叛に従ひ、羽柴秀吉の爲に破られて高野山に遁れ、再び出で、秀吉に臣事し、祿三百石を受け、賤岳の役に軍功があり、又關白秀次に轉じ、文祿四年秀次の罪を獲た後京師に閑居したが、明年前田利長は奥村永福及び横山長知をして重久を聘せしめ、四千俵を興へ、尋いで五千五百石に増した。慶長五年大聖寺の役に首級を獲、八年功に因りて大聖寺城の守將となり、十五年家を次子重次に譲りて老を告げ、大坂の初役に中軍に在りて参謀し、再役には大聖寺に留守し、次いで金澤に歸つて譚伴となり、寛永十一年八十六歳を以て歿。法諡養安道供。

ツダシゲモチ 津田重以 通稱外記・源右衛門。重久の子、重次の弟。初め前田利長に仕へて三百石を受け、後二百石を加へ、大坂兩役に従ひ、その後役には使番を勤め、岡山口で槍功があつた。元和二年祿五百石を加へ、大小將番頭・御小將頭に累任し、寛永中又二千石を加へ、人持組に班し、萬治元年歿した。

ツダジュンソウ 津田淳三 父長屋權作は加賀藩の老臣横山氏に仕へてゐた。淳三は文